

■月光院(お喜世)

げっこういん

出世景清初演1685=

6代將軍徳川家宣の側室。7代將軍家継の生母。政権争奪戦の犠牲となり、大奥の風紀紊乱の元凶に。

生。父は金沢藩浪人佐藤三郎左衛門といい、漂泊して儒者となり、浅草唯念寺の塔頭林昌軒の住持となって勝田玄哲と称した(のち幕臣)。母は松平伊勢守の家臣和田治左衛門の娘。名は輝子、はじめお喜世の方、のち左京の局と称する。

芭蕉+師宣没 1694= 9歳 :

生類憐令頂点1695=10歳 :

はじめ京極氏,

のち戸沢氏に仕え,

赤徳浪士切腹1703=18歳 :

団十郎刺殺・1704=19歳 : 大番勝田備後守典愛の養妹として、甲府藩の江戸桜田藩邸奥勤となり、綱豊(家宣)に仕える。

綱豊が綱吉の養子になると、綱豊に従って西の丸に入り、

徳川綱吉没・1709=24歳 :

*綱豊が6代將軍徳川家宣となつてすぐ、鍋松(家継)を生み、三の部屋、山里御部屋と呼ばれる。家宣の子には先に側室お須免の方が生んだ大五郎があつたが、鍋松側には側用人間部詮房がつき、大五郎側には正室天英院(熙子)がついて、幕閣と大奥を二分する世子争いとなる。

..... 1710=25歳 :

大五郎が急死、鍋松が世子となるが、その死は鍋松側の陰謀とささやかれた。

乾山陶器店・1712=27歳 :

家宣が死去したため、落飾して月光院と称し、吹上御殿へ移る。

和漢三才図絵1713=28歳 :

*鍋松が4歳で將軍家継となり、幼將軍を擁した詮房とともに権勢をほしいままにし、従三位に叙され、詮房との艶聞もささやかれた。

絵島事件・1714=29歳 :

絵島生島事件が起り、月光院は大奥風紀紊乱の元凶のごとく評されたが、これは多分に天英院と結託した詮房反対派の宣伝によるところが大きい。

徳川吉宗將軍1716=31歳 :

*風邪を引いていたのに、無理に能楽鑑賞させたためか、こじらせて家継が死去してしまう。

小石川薬園・1721=36歳 :

..... 1730=45歳 :

享保大飢饉・1732=47歳 :

㊦船出没始 1739=54歳 :

徳川吉宗隠居1745=60歳 : 吉宗が隠退しようとする、次期將軍に田安宗武を推すなど、なお影響力を行使しようとし、

忠臣蔵・・・1748=63歳 :

月光院は身長6尺近く、才色兼備、読書を好み、書道や和歌をよくし、神道や密教にも興味を示し、一方で楊弓や双六などの遊技にも通じていたという。

徳川吉宗没・1751=66歳 : 吉宗の死を見届けて、

..... 1752=67歳 :

没した。歌集「東玉集」がある。